

NCP 第40回 オープンセミナー

日 時： 2017年7月23日(日曜日) 9:45-13:00

場 所： 高見研修センター(スギヤマ薬品研修センター 2F)
〒464-0073 名古屋市千種区高見1-1-5 TEL.052-757-5411

参加費： 3,000 円 (学生：無料) 定員： 90名



COPDは呼吸器疾患であると思いがちですが、循環器疾患を起因とするケースもあります。今後地域包括医療が進められる中臨床薬剤師として、疾患にかかわる様々な服薬指導を始めとする助言をしていかねばなりません。

本セミナーは、COPDをキーワードとして循環器疾患を学びなおす機会と考え企画いたしました。

～セミナー運営委員より

■講演1 9:45 - 11:15
『GPがみるCOPD ～①～』

休憩 11:15 ~ 11:30

■講演2 11:30 - 13:00
『GPがみるCOPD ～②～』

講師： 大西内科ハートクリニック 院長 大西 勝也 先生

(要旨)

COPDは日本人において、約500万人いると言われている肺の生活習慣病である。タバコの害によるものが大きい。咳、痰、息切れが主症状であるが、必ずしも安静時には症状を発しない場合も多い。診断には、スパイロメトリーが使用され、1秒間に吐く力(1秒率)で評価される。臨床上の問題点は、身体活動性の低下、いわゆる動きたくなることである。また、風邪をひくと増悪を生じ、いったん増悪すると、呼吸機能は著しく低下する。治療は、長時間作用型の抗コリン薬と、長時間作用型のβ刺激薬が中心となる。治療の問題点は、吸入指導が困難な点と、服薬アドヒアランスが低い点である。薬剤師の介入が必要と思われるところである。近年、COPDの併存症が問題となってきた。COPDは全身の炎症を惹起する全身性疾患である。そのなかで、特に問題となっているのは、COPDの生命予後に大きく寄与する循環器疾患である。虚血性心疾患と心不全は、COPDによって2-4倍発症が増加するといわれている。特に、左心不全が問題となっている。逆に、心不全患者の約20-30%にCOPDが併存しており、循環器の観点からもCOPDは重要な問題となってきた。本講演では、COPDをGPあるいは循環器内科の視点から解説し、薬剤師の介入について言及する。



主催：NPO名古屋臨床薬剤師研究会

【アクセス】

今池駅より・③番出口より徒歩にて約10分
東部医療センター前

【お申込み方法】

本セミナーは、HP: <http://www.nicp.jp/ncp/>
の参加申込みフォームよりお申込み下さい。

【連絡先】 NPO名古屋臨床薬剤師研究会 事務局

名古屋市千種区吹上1-2-15-5F (株)名古屋臨床薬理研究所内
Tel 052-733-7601 Fax 052-846-2888 17-249